

復興に向かい全力で進む只見町



▲豪雨による災害復旧工事で大型車輛を運転する方などに小学生から交通安全を祈願した短冊が贈られた(記事6ページ)

町は、復興に向け様々な事業を実施しています。特に、町内全域で発生した河川の氾濫などによる災害の復旧工事は、7月30日現在で、道路・橋梁・河川関係が29カ所で、林道が63カ所、農地・農業用施設関係が94カ所、上水道施設関係が12カ所、集落排水施設関係が3カ所、町営住宅関係が7カ所となっており、既に工事が完了したところや、



▲町内全域で進む復旧工事

災害復旧工事の状況

平成23年7月新潟・福島豪雨災害から一年が経過しました。町では、大水害からの復興を目指し、昨年9月に「同豪雨災害からの復興の基本方針」を策定、その復興施策には「災害に強いまちづくり」「被災者の居住の安定確保」「地域経済活動の再生」「豪雨災害の教訓を踏まえたまちづくり」の四つが掲げられています。この施策に基づき、大水害から一年が経過した今、町は、町民の皆さんと行政が一体となり、国・県の支援も受けながら、「安全に生活できる、災害に強い町」の実現に向かって全力で進んでいます。まだまだ復興には時間を要しますが、必ず訪れる復興の日を信じ、心をひとつに歩み続けましょう。

豪雨災害で孤立状態になった地域や孤立の可能性が高い集落に対し、非常時に対応するための衛星電話と、さらに家庭用カセットボンベ2本を燃料に発電可能なガス式簡易発電機を、塩沢、寄岩、蒲生、八木沢、入叶



▲配備された衛星電話

衛星電話や簡易発電機を配備

これから開始される場所もあります。なお、これらの総事業費は、査定額ベースで約33億4千万円となっています。

町内の27集落と入叶津地区、黒谷入地区の全29カ所に簡易雨量計を配付しました。配付したものは、卵型のコンパクトな雨量計で、雨が降ったら5分から10分ほど外に出し、表示を確認、簡単な計算で1時間当たりの雨量が分かり、避難の参考になります。なお、役場本庁にも備えています。



▲配付された簡易雨量計

簡易雨量計を配付

津、黒谷入、塩ノ岐、布沢の8集落(地区)に配備しました。

「新生只見の実現に向け、皆様と頑張ります」

只見町長 目黒 吉久

平成23年7月新潟・福島豪雨災害から一年が経ちました。昨年はライフラインの復旧、避難所生活の支援、住宅対策、災害復旧個所の査定対応等あわただしさの中で降雪期を迎えてしまいました。今年度は、本復旧に向けた工事の発注も進み、関係者及び事業者一丸となって復旧作業に取り組んでいただいております。改めて御礼を申し上げます。

6月6日には黒谷川・叶津川の起工式が行われ、工事が進行しているとともに、只見川河川改修の考え方も県より示され、八木沢地区農地災害復旧の着手も目前となりました。住宅、店舗、農地等大きな被害にあわれた方々には、精神的・経済的困苦の中から今日まで生活の立て直しに頑張ってきたこと、また、復旧関連につきましてご理解・ご協力いただきましたことに感謝申し上げます。

最近の台風やゲリラ豪雨がもたらす被害は常に記録的なものになっています。百年に一度の洪水といった確率論は意味がなくなり、今回を機に災害に強い安全な只見町にするため、今まで以上に質の高い治山・治水対策を求めてゆかなければなりません。また昨年の経験を基に道路寸断・停電等非常事態発

生時にきちんとした対応ができる資機材の設置とそれを活用した集落・関係機関との通信・通報・連絡体制の確立を図っておりますが、今後は、町・国・県・電力事業者も含め、只見川流域の安全対策に果たすべきそれぞれの役割と責任を明確にしながら取り組んでまいります。住民各位にもこの時期、集落防災訓練の実施等を通してなお一層の防災意識の高揚を図っていただきたいと思います。

さて、東日本大震災以降、原発事故による風評被害や豪雨災害によって住民生活と地域経済に大きな打撃を受けました。未だ傷癒えぬ現状ですが、それでも復旧工事の進みも感じられるようになり、少しずつ私たちの心の中にも元気が取り戻されていることを感じます。また、7月23日には国道252号が再開通したことはうれし限りであります。夏休み、お盆、秋の紅葉シーズンに間に合いました。

災害復旧工事は今年・来年が山場。復旧後の元かな只見町を再生することを誓い、自主・独立・自尊の気概を持って新生只見の実現に向け、引き続き皆様とともに議会と一緒に頑張っている所存であります。

自主防災の意識向上



▲避難所に避難する地域住民



▲避難が完了した地域住民

7月29日、小川集落で防災訓練が行われ、地区の住民や消防団員ら145名が参加しました。午前9時の訓練広報で同集落に避難勧告が出されると、地区住民は集会所などの避難所に迅速に避難しました。関係者からは「訓練を行うと課題が見えてくる。その課題を踏まえ、さらに訓練を充実させていきたい」との感想が聞かれました。

小川集落で防災訓練

昨年、新潟・福島豪雨のような突然襲ってくるゲリラ豪雨をはじめ、突風や竜巻など、ここ数年の間日本各地で異常気象による大きな自然災害が頻発しています。自分の住んでいる場所は安全という考えは非常に危険です。普段から避難先や避難経路、連絡先などを確認され、さ

らに、災害用品、非常用食品などを常備されることをお願いします。災害は、震災も含めいつ発生するか分かりません。非常時にはお互い助け合い、いち早く避難してください。町民の皆さんには、自主防災を心掛け、被害に遭わないよう、また被害を最小限に抑えられるよう、日頃からの万全な備えをお願いします。

自然災害に対する日頃の備えを

豪雨の被害状況とできごと

被害の状況

新潟・福島豪雨の被害状況です。

建物被害 (H23.12.1現在)

- 全壊：30棟(住家7棟、非住家23棟)
 - 大規模半壊：25棟(住家21棟、非住家4棟)
 - 半壊：135棟(住家114棟、非住家21棟)
 - 床上浸水：50棟(住家35棟、非住家15棟)
 - 床下浸水：127棟(住家114棟、非住家13棟)
- 合計 367棟 / 住家 計291棟 / 非住家 計76棟

農地等被害 (H24.3.31現在)

- 農地・農業用施設被害 計 7億2,060万円

林業等被害 (H24.3.31現在)

- 林道・治山等施設 計 14億800万円

公共施設被害 (H24.3.31現在)

- 道路17箇所/河川7箇所/橋梁5箇所/町営住宅29戸/
簡易水道施設6箇所/集落排水施設3処理場 計 16億80万円

企業等被害 (H24.3.31現在)

- 商工業被害 (69件) 計 5億3,654万円

被害額合計 42億6,594万円

【参考】福島県管理施設被害額 70億220万円

～町の平成23年度一般会計当初予算額は約40億円～

ライフライン被害 (ピーク時)

- 水道・・・8集落(390世帯889人)が断水
【10月14日まで2集落(43世帯72人)に給水】
- 下水・・・6集落(290世帯680人)が使用不可
【8月29日 全町復旧】
- 停電・・・町内全域(1960世帯4990人)が停電
【31日午後、8集落(253世帯588人)を除き復旧】
【8月13日午後には全町復旧】
- 固定電話・・・11集落(386世帯977人)が不通
【8月20日 全面復旧】
- 携帯電話・・・12集落(470世帯1188人)が不通
【8月25日 全面復旧】



▲羽田国土交通大臣に要望書を手渡す
菅家会長(左から3人目)

昨年発生した豪雨災害によりJR只見線が現在も不通になっていることから、只見町JR駅を支援する会(会長・菅家俊一、只見町商工会長)の菅家俊一、長ら5名が、7月20日に国土交通省を訪れ、JR只見線の早期復旧運行を願う要望書を8月12名の署名簿を添えて、羽田雄一郎国土交通大臣に手渡ししました。羽田国土交通大臣は「只見線を廃線にすることはない。国もJRに働きかける」と述べられました。

JR只見線の早期復旧運行を
国土交通大臣に要望

時系列

昨年の豪雨に関する時間の流れと主な内容です。

7月28日	
7:33	大雨警報発令
14:47	洪水警報発令
7月29日	
11:20	各地区から被害情報が入り始める
12:00	水防本部設置
12:30	叶津 堅盤橋通行止
13:30	R252宮淵～新潟 通行止め
15:00	中ノ平橋通行止
16:00	黒谷 黒谷入手前～万歳橋まで通行止
16:40	蒲生橋通行止
17:00	災害対策本部設置
17:30	全町に向け、各集会所等への避難勧告を広報
17:35	伊南川発電所水没
17:35	町民に対し増水注意を、消防団に対し河川巡視を開始するよう広報
17:58	樺戸 花立橋通行止
18:00	自衛隊へ派遣要請
23:35	久保橋通行不能
23:37	小川橋 落橋
7月30日	
6:21	樺戸橋通行止
9:00	前日9:00からの24時間累計降水量 523.5mm
9:30	各地で通行止の広報(該当箇所はR252田子倉地内、叶津蒲生地内、R289樺戸・杉沢地内、県道小林館ノ川線荒島地内、県道大倉大橋浜野線二軒在家地内)
13:20	ヘリによる救助開始の広報
17:07	ヘリによる物資輸送実施の広報
17:54	R289杉沢地内通行止解除
7月31日	
8:10	黒谷入地区、ヘリ救助開始
15:00	電力全面復旧見込
20:00	堅盤橋 仮復旧により一車線通行可能
8月1日	
13:50	ヘリによる行方不明者捜索開始(自衛隊)
15:26	大雨土砂災害警報発令
8月2日	
8:30	自衛隊撤収
9:00	全町で避難勧告解除

災害から身を守るために自主防災に努めましょう

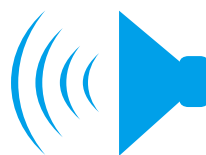
【町民のみな様へ、大切なお知らせです】

町からお知らせする避難の情報

周知情報	以下の基準を目安に対象地区に周知情報を放送します。	放送を聴いたら次のとおり行動してください。
避難準備	<ul style="list-style-type: none"> ○約3時間後にはん濫危険水位に到達すると予測される範囲で人的被害の発生する危険が高まったとき ○道路冠水になると予想される時 	<ul style="list-style-type: none"> ○家財、財産等を安全な場所へ移動してください。 ○お年寄りや体の不自由な方など避難に時間のかかる方は避難をはじめてください。(水防団は巡視のうえ待機)
避難勧告	<ul style="list-style-type: none"> ○約1時間後にはん濫危険水位に到達すると予測される範囲で人的被害の発生する恐れが明らかに高まったとき ○近隣地区で道路冠水が発生し、只見町においても浸水被害が予想される時 	<ul style="list-style-type: none"> ○避難してください。 ○近所の方にも避難について声をかけてください。(水防団は避難誘導及び水防活動)
避難指示	<ul style="list-style-type: none"> ○はん濫危険水位に到達し人的被害等の発生する危険が非常に高いと判断したとき ○近隣で床上浸水が発生したとき 	<ul style="list-style-type: none"> ○直ちに避難してください。 ○時間のない方は、近くの安全な建物など高いところに避難してください。(水防団は避難誘導及び水防活動)

危ない!! サイレンが鳴ったら
間もなく川の水が増えます。
川には近寄らないでください!

田子倉ダム・只見ダムからの発電放流や、大雨によるダム放流のときにはサイレンを鳴らします。



●発電放流のときのサイレンは、

1分間 サイレン 10秒 1分間 サイレン

●ダム放流のときのサイレンは、

1分間 サイレン 10秒 1分間 サイレン 10秒 1分間 サイレン 10秒 1分間 サイレン 10秒 1分間 サイレン

※サイレンを鳴らしたあと「只見ダムからの放流のため、川の水が急に増えます。危ないので、川原におりている人は、急いで水のこない所まで上がって下さい。また、川の水位が上がりますので、川には近寄らないで下さい。」との放送が流れます。

◆ダム放流のときはサイレンと防災無線で皆さんにお知らせします。



- ・田子倉ダム、只見ダムからダム放流を開始するとき。
- ・只見ダムからの放流量が増加(毎秒500^ト、1,000^ト)したとき。
- ・田子倉ダムからの放流量が増加(毎秒1,000^ト)したとき。
- ・田子倉ダム、只見ダム、滝ダムへの流入量が増加し、はん濫や洪水がおこる可能性があるとき。



上記以外にも注意喚起や避難などの水防情報についても放送しますので、大雨のときは防災無線の情報に注意してください。

防災無線の個別受信機の乾電池は、毎年交換しましょう。(停電時でも放送が聞こえます。)

みんなの絆が未来を築く只見町



蒲生字小八木沢
五十嵐 陽 さん

被災から一年、多くの
方々に助けいただき今
を迎えられていること、
本当に感謝しています。

ありがとうございました。

当時のままの悲惨な光景を見ると不安感はある
ますが、少しずつ作業が進められ復興に向かっ
ていると毎日実感して嬉しく思っています。これか
ら豊富な自然を壊すことなく、ときには厳しさを
感じながらも自然と共存できる只見町であって
ほしいと願っています。



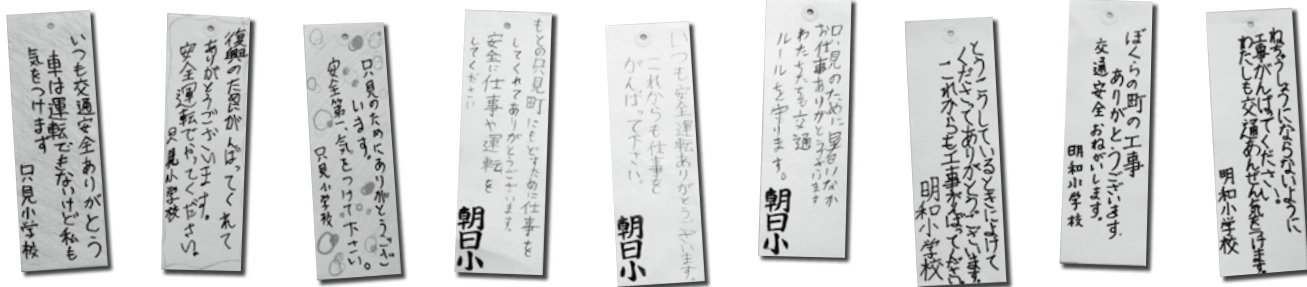
豪雨災害から一年
只見町消防団長
鈴木 好行 氏

甚大な被害をもたらした豪雨災害からちょうど
一年がたちました。各所で発生した災害はまだま
だ大きな爪跡を残しています。あらためて当時を
振り返ると、一人の行方不明者が発生し、未だに
発見に至っていないことは残念ですが、活動中の
消防団員を含め、それ以外の人的被害が出なかつ
たことは、まさに奇跡的な出来事だったと思われ
ます。これは危険を感じた人たちが、いち早く避
難したからに違いありません。

この災害を教訓に、各地で避難訓練を実施した
り、避難場所の見直しをしたりと、町民の防災意
識も高まってきています。この後もどんな災害が
発生するかわかりません。これらの災害には立ち
向かわずにまず逃げましょう。「逃げるが勝ち」
なのです。

交通安全祈願短冊

昨年の豪雨による災害復旧工事で大型車両
などを運転するドライバーや現場関係者の方
に、町内の小学生が、交通安全と工事の無事
を願った短冊を贈りました。贈呈式は7月31
日に黒谷川の万歳橋近くで行われ、小学生か
らトラック運転手の方へ短冊が手渡されると、
笑顔で受け取られました。工事関係者の
皆さん、安全な作業をお願いします。



復興への第一歩
ボランティア活動
(平成23年8月)



みんなの力で復興に向かう只見町



只見中学校2年
目黒 翼 さん

毎日暑い日が続くと、昨年体育館で送った避難生活を思い出します。半分以上水没した家を前に呆然とした記憶が、今でも強烈に脳裏に焼きついています。最近、復興に向けて日に日に町が元気になっていく様子を感じられるようになりました。僕一人の力は小さいですが、今自分にできることを精一杯やることで町の復興につながると信じて頑張ります。復興には時間がかかりますが、町がまた元通りになり、美しい風景に一日も早く戻るように心から願っています。



只見高等学校2年
長谷部 英樹 さん

豪雨災害から一年、町は復興に向け全力で進んでいます。ですが、まだまだ「復興」には時間がかかると思います。あまりにも被害の規模が大きすぎて「復興」という言葉にも途方に暮れる思いだと思います。しかし、一人一人の絆を大切に、支え合いながら、只見町が前向きな気持ちで、一刻も早く自然豊かなもとの町に戻ることを期待しています。そして、今まで以上に元気な町になることを信じて、これからもみんなで力を合わせて頑張っていきましょう。

「只見駅～大白川駅」間の代行バスを運行

現在JR只見線が豪雨災害の影響で運行できない只見から大白川間について代行バスを運行しています。
なお、只見駅と大白川駅との間は、降雪期前を目途に只見線の運行再開を予定しております。

運行時間

只見駅 発	→	大白川駅 着	車種
8:50	→	9:50	マイクロバス
15:00	→	16:00	ジャンボタクシー
17:50	→	18:50	ジャンボタクシー

大白川駅 発	→	只見駅 着	車種
8:20	→	9:20	ジャンボタクシー
14:20	→	15:20	マイクロバス
18:10	→	19:10	ジャンボタクシー



只見小学校6年
新國 かすみ さん

私は、昨年の豪雨災害で二ヶ月以上、地区センターに避難していました。友達が遊びに来てくれることもあって、さびしくはなかったけれど、家の中がぐちゃぐちゃになったのはたいへんでした。片付けの時には、ボランティアの人たちも手伝ってくれました。
今、元の只見町の姿を取りもどすために、いろんな所で工事が行われています。只見町がますます明るく笑顔がいっぱいになるよう、元の姿がとりもどせたらいいと思います。



みんなの思いはひとつ
「がんばろう只見町」

